

ふしみ・ふかくさ町家シネマ

活動地域:伏見区 活動時期:平成26年4月～

大学・団体名:龍谷大学政策学部政策学科松浦ゼミナール

活動概要

ふかくさ町家シネマプロジェクトとは、昭和時代に庶民の生活文化が記録された8ミリフィルムを地域社会で収集し、上映会を開催する活動である。活動地域は深草地域を中心とした伏見区内である。主に、家庭で家族を対象に撮影されたホームムービーを収集する。

開催

- 9月1日 「電気屋さんのこどもたち」
9月8日 「地域のおまつり」(ふれあいサロン)
10月21日 「ホームムービーの日 in 伏見」
伏見歴史同好会

連携先

伏見歴史同好会:8ミリフィルムの提供

ホームムービーの日共同開催

株式会社 吉岡映像:8ミリフィルムのDVD化

伏見区社会福祉協議会

グラフィックデザイナー 林 亜衣子さん:印刷物の協力

池田和代さん:8ミリフィルムの持ち主

活動目的

① 8ミリフィルムのデジタル化

昭和30年代前半から40年代後半に普及した8ミリフィルムは、当時の生活の様子や現在失われたまちなみが映像として記録された貴重な資源である。

それらをDVDにデジタル化し保存することで、庶民の暮らしや見られなくなった地域の建築・風景などが収められた記録を遺すという目的がある。

② 上映会を通じて語りを引き出す

上映会を開催し地域の方々にそれらの映像を公開する。その際、フィルム提供して下さったご家族から

記憶を語って頂き、またご来場された方々からも思い出を伺う。そこで引き出された語りや、交わされた会話を丁寧に書き起こす。思い出を伺うことにより、撮影された当時をより深く知ることができる。

活動成果

上映会を通じて、フィルム提供のご家族や参加者との会話から私たち学生が初めて知った昭和の暮らしの営みや文化がある。例えば、映像当時の家庭には一家に一台電話があった訳ではなく、ご近所さん同士で電話を呼び出して使わせてもらうことが当たり前であったそうだ。さらに、新築を建てた時は近所の人たちを招き、「もちまき」を行い地域ぐるみで上棟式を行っていた。

映像や会話から、今では失われたご近所さんや地域の方との深い繋がりや絆が見えてきた。

今後の展開

今後はお年寄りの方々と私たちの親世代が交流できるようにし、異世代間のつながりも作り出していきたい。お年寄りだけでなく他の世代にも参加してもらうためにチラシだけでなくSNSなど幅広い方法で周知する。

開催場所として例年、龍谷大学町家キャンパスで開催してきたが、より多くの場所で開催していきたいと考えている。最近では、老人ホーム、区役所、深草小学校で行われているふれあいサロンなどに会場を求め、地域住民の皆さんの協力を得て、よりオープンな場所での開催を目指している。

さらに、町家シネマで得られた貴重な高齢の方々の会話の録音から地域生活史を書き起こし、記録を印刷物・出版に遺してゆく。「地域に眠っていた個人の貴重な資源を、地域の公共財として遺していきたい。」

町家シネマが地域の繋がりを育むコミュニティとなり、今と昔の生活文化の違いから昭和の魅力を見つけるだけでなく、未来を構想する材料を発見できる、イノベティブで楽しい学びの場にしていこう。